2026
11
Vol.570

GREEN Rader

全農長野県本部情報　グリーンレーダー







中期事業計画（令和7～9年度）実行具体策の進捗状況について

A-Reports

・今年度も「酪農体験ふれあいファーム」に多くの子供たちが参加 …… 5
・オークワでのトラックセールを実施 …… 5
・令和8年産米の概算金を報道機関に説明 …… 6
・椙山女学園高校で果実食育を実施 …… 6
・東御市・JA信州うえだ「ブドウ」トップセールスを開催 …… 7
・「にっぽん青果祭」で信州の旬をPR …… 7
・「みのりみのるマルシェ 信州の実り」開催 …… 8
・JA中野市「きのこ・ブドウ」トップセールス開催 …… 8
・清泉大学菅原学長とJA全農長野長谷川県本部長が懇談 …… 9
・訃報　大月計吉氏逝去 …… 9
・全農関東甲信地区役職員親睦野球大会が開催されました……10
・JA全農長野の事業現況 ……10
・11月のラジオ番組表 ……10
・編集後記 ……10

光と風と水のハーモニー
JA全農長野

中期事業計画（令和7～9年度）実行具体策の進捗状況について（令和8年度9月末）

全農長野県本部は中期事業計画（行動計画）の実践により、ＪＡ支援に取り組むとともに、ＪＡおよび子会社とともに農業所得の増大と地域の活性化に取り組んでいます。

Ⅰ.【中期事業計画における基本目標】令和8年9月末時点での総括

その1　持続可能な農業生産基盤づくりによる農業生産量の維持・拡大

(1) りんご高密植栽培は計画面積545haを達成し、野菜では実証圃の設置や施設化、高温・排水対策を進めるなど、気象変動に対応した生産基盤づくりを推進しました。下期は実証結果を検証し、効果の確認された技術・資材の普及と導入産地の拡大を進めます。

(2) 担い手訪問による課題把握と具体的な提案、圃場カルテ等の農業ＤＸ、種苗・畜産酪農の生産基盤対策を進めました。一方、生乳や肉牛等では生産基盤の縮小が続いているため、下期はＪＡ・関係部門との連携を強化し、支援策の着実な実行により生産量の維持・拡大を図ります。

その2　販売力強化とコスト低減による農家組合員の手取り最大化

(1) 生産コスト上昇を踏まえ、予約取引の価格・条件改善交渉を進めるとともに、輸出、加工・業務用取引、信州産ブランドの販売拡大に取り組みました。下期は品目ごとの進捗を踏まえ、来期に向けたコスト試算と価格転嫁交渉、新規輸出国・取引先の開拓等に取り組み、生産者手取りの確保につなげます。

(2) 担い手直送規格農薬、需要結集マルチ、「わたしの肥料」は計画を達成・上回り、低コスト・省力資材の普及が進んでいます。一方、低コスト段ボールやパレット対応包材等は計画途上のため、下期は規格集約や試験検証に取り組み、資材・物流コストの一層の低減を図ります。

その3　ＪＡ経済事業の収支改善と活気ある地域社会づくり

(1) ＳＳとＡ・コープの相互送客、ＪＡでんきの取扱拡大、ＪＡタウンの新規出店者獲得、セレモニーのシェア向上など、ＪＡ経済事業の利用拡大と地域のくらしを支える取り組みを進めました。下期は販売数量・取扱高が計画途上の事業を中心に、各種キャンペーンや販促支援、顧客接点活動を強化し、収益の確保を図ります。

(2) 青果物販売管理、米穀出荷管理、肥料農薬カタログ等のシステム導入により、ＪＡの業務効率化と組合員サービスの向上を進めました。一方、システムの利用ＪＡ・生産者の拡大、食肉公社閉鎖に伴うかかり増し経費、畜産酪農営農センターの運営体制等は継続課題として、下期も関係機関との協議・検討を進めます。

Ⅱ.【中期事業計画における取り組みの特記事項】（令和8年9月末時点での総括）

その1　担い手推進センターの取り組み

(1) 生産振興、購買事業の利用拡大および系統集荷量の拡大に向け、ＪＡと連携して地域の担い手を訪問し、個別のニーズや課題を把握しました。

(2) 把握した要望や課題は、事業所と本所3部門（生産振興・生産販売・生産購買）で共有・協議し、ＪＡ・担い手と連携して回答や解決策を提示しました。

(3) 令和8年度は9月末までに122件（前年160件）の担い手を訪問しました。重点推進先を中心に訪問を重ね、ニーズや課題の把握にとどまらず、具体的な提案内容の充実へ進展している事例も生まれています。

その2　アグリプラット（農業生産管理に関わるＤＸ）の取り組み

(1) 全体進捗
関係部署による推進会議を開催し、県本部方針や各システムの推進状況・方針、ＢＩツールの活用事例等を共有するとともに、今後の推進方策について協議しました。各システムについては「ＪＡ全農長野　中期3ヵ年ＤＸビジョン」に基づき設置したプロジェクト・委員会において、開発・導入等の取り組みを進めました。

(2) 各システムの進捗状況

情報発信	全ＪＡで稼働	各ＪＡにおける組合員マイページの新規利用開始に合わせて、組合員マイページと連携した情報発信機能の活用についてＪＡへ案内しました。
圃場カルテ	アスパラ5ＪＡ りんご高密植1ＪＡで稼働	アスパラガス・りんご（高密植栽培）のカルテと「あい作」栽培管理システムの連携した取り組みとして産地ＪＡへの普及を進めました。ＪＡの営農指導・営農ＤＸの推進に向けて環境を整備しました。
青果物販売管理	2ＪＡで稼働 5ＪＡでテスト稼働	2ＪＡで出荷報告機能を利用開始し、生産者の作業効率化・ペーパーレス化、ＪＡの集計業務の負担軽減等につながりました。5ＪＡにおいて本格導入を前提とした機能確認やテスト稼働を実施しました。
土壌診断	全ＪＡで稼働	圃場特性と過去の知見を踏まえた施肥・栽培管理の高度化を目的に、圃場カルテシステムとの連携機能を開発し利用開始しました。また、組合員マイページとの連携に必要な機能の開発について検討を進めました。
米穀出荷管理	7ＪＡで稼働	ＡＩ－ＯＣＲとの連携機能を開発し、令和8年産米よりＪＡ利用を開始しました。利用ＪＡでは生産者登録数が大幅に増加しました。また、組合員マイページとのシングルサインオン連携機能の開発を進めました。
肥料農薬カタログ	全ＪＡで稼働	ＪＡの事務効率化と正確性の向上を目的として、「あい作」資材受注システムへ商品情報・画像を自動連携する機能を開発しました。

【生産振興部】

実行具体策	8年度計画	進捗状況	達成度合いと今後の進め方
1. 産地基盤維持に向けた生産振興の推進			
(1) マーケットニーズ、担い手ニーズに応じた3部連携による生産・販売支援	メニュー提案	担い手への種苗等の推進や栽培技術の提案	果菜類及び果樹の栽培技術提案や品質向上に向けた提案を進める。
(2) りんご高密植栽培の普及拡大	545ha	面積545ha 現地指導8回 研究会　3回	生産安定のための課題解決に向けた現地指導・栽培研修会・研究会を実施し、情報発信も併せて実施していく。
(3) JA、生産法人と連携した試験栽培や実証圃の設置による生産振興	実証圃設置 5圃場	アスパラ4圃場 かぼちゃ1圃場 春玉ねぎ1圃場 きゅうり1圃場 ピーマン1圃場	新たな品目提案や簡易施設栽培、品種・潅水量の試験など実証試験圃を設置。実証結果を踏まえ、今後の普及拡大に向け提案を実施していく。
2. 気象変動に対応した生産安定化対策と災害対策の推進			
(1) りんご高密植栽培のトレリス強化対策推進と多目的ネットの普及拡大	検証	輸入トレリス 2ヶ所 多目的ネット強化対策周知	災害対策にトレリスの現地実証を4ヶ所設置、輸入トレリス2ヶ所設置しコスト低減効果の検証を進めている。また、高温対策資材の普及推進を進める。
(2) 生産安定に向けた野菜の施設化推進	導入5ヶ所	高温対策 2ヶ所 きゅうり施設化 4ヶ所	高温対策を目的とした果菜類のモデル圃場を設置。資材による効果を検証し、推進を行っていく。また、きゅうり簡易雨よけハウスの推進を行い、導入に至った。
(3) 専用機器を活用した排水対策の実施	実施15ヶ所	デモ実演 1ヶ所 排水対策機械貸出 11ヶ所	平高畝成型機「ベッドマイスター」による排水対策・栽培技術の推進と貸出を実施。「カットブレーカー」「電動オーガ」を含め利用推進を目的に排水研修会を実施する。
3. 農業DXの普及推進			
(1) 圃場カルテの普及拡大	導入7JA	アスパラガス運用 6JA りんご高密植栽培運用　1JA	圃場カルテシステム（アスパラガス）を6JAで運用中であり、りんご高密植栽培でも圃場カルテシステムの運用をしている。 導入JAの生産者利用拡大を推進中。
4. 県本部種苗供給体制の強化			
(1) 野菜種苗センターの優良苗供給拡大	140万本	120万本供給	良品質苗の安定生産を継続し、次期作に向けての推進を行う。
(2) りんごフェザー苗の生産供給拡大（生産振興部生産本数）	6万本	5万本供給にむけて管理	歩留まり向上のための生育管理を継続。

【生産販売部】

実行具体策	8年度計画	進捗状況	達成度合いと今後の進め方
1. 生産者手取り最大化に向けた販売力の強化			
(1) 予約価格の適正化	取引の50%以上の条件を改善	改善達成率 野菜　8% きのこ　46% 果実　30%	コスト上昇試算表に基づく取引価格値上げと取引条件改善の交渉を実施。 予約取引1,563件中1,546件商談終了。来期に向けたコスト試算と顧客向け資料の作成を進める。
(2) 輸出拡大と加工・業務対応の強化 ①輸出額拡大 ②加工・業務取引拡大	①輸出額 24億円 ②新規2件	①輸出額 8.6億円 ②新規2件	①下期はぶどう三姉妹®のカナダ輸出等、新規輸出国や取引先の開拓に取り組み、実績の伸長を図る。 ②コンビニとのコラボ商品（野菜）、コンビニ向けドリンク（果実）開発。「全農長野」表示商品の開発と新規提案の継続。
2. 効率的かつ安定的な輸送体制の確立			
(1) パレット輸送体制の確立	新規2JA	試験運用 新規1JA	レンタルパレットは新規1JAにて試験運用実施。運用コストを試算し利用を進める。 りんご専用パレットは新規利用産地・新規供給先への試験運用に向けて継続検討。
3. 系統集荷率の向上			
(1) 生産販売強化品目の設定と増産 ①りんご ②トルコギキョウ ③アルストロメリア ④業務用キャベツ ⑤ブロッコリー	①300万ケース ②600万本 ③1,450万本 ④8,500t ⑤9,800t	①18.4万ケース ②332万本 ③796万本 ④5,929t ⑤8,265t	①苗木供給先巡回強化及び売場確保強化。 ②病害頻発による生産減。耐病品種の検討。 ③生産増。統一講習会、全戸巡回指導継続。 ④特定実需者事業の活用による顧客確保。 ⑤はくさい・レタスからの転作誘導品目としての推進強化。

【生産購買部】

実行具体策	8年度計画	進捗状況	達成度合いと今後の進め方
1．包材のコスト抑制・需要の結集			
(1) 低コスト・新形状段ボールの開発・普及	累計50万箱	3・5万箱	2品目で導入され受注進む。ぶどう組箱輸送試験継続実施と導入推進。
2．青果物輸送における物流課題解決			
(1) パレット規格に適合する包材の開発	実証・組織合意（8品目）	3品目実証・組織合意1品目切替済	未実施品目の試験実施と組織合意を進める。
3．低コスト・省力資材の開発、普及			
(1) 原料・成分見直しによる低コスト銘柄の開発	3銘柄	1銘柄	1銘柄新規商品化。今後、商品化予定2銘柄の準備を進める。
(2) 担い手直送規格農薬の普及拡大	6，800ha	7，201ha	水稲箱剤および除草剤の受注拡大で増加。
(3) 需要結集マルチの普及拡大	350ha	1，049ha	中東情勢の緊迫化に伴う品薄感や値上げへの懸念を背景に、需要結集マルチの受注が大幅に拡大。次年度に向けては、規格集約による更なるコスト低減を図る。
4．担い手への提案型推進			
(1) 「わたしの肥料」受注推進	5，600t	5，649t	受注・製造・物流の効率化を進める。
(2) 長野米集荷推進の実施と販売力強化	69，000t（高温耐性500t）	59，500t（950t）	集荷推進と各販売先との契約積み上げ。
4．広域営農技術員の設置			
(1) 広域営農技術員の設置（花き）	体制づくり	検討	各地区の実情に応じた広域指導体制構築検討。
5．青果物流通のデジタル化			
(1) 青果物販売管理システム稼働	7JA	試験運用3JA	利用拡大に向けたJA稼働推進の強化。先行JAでの事例積み上げと他地域への展開。

【畜産酪農部】

実行具体策	8年度計画	進捗状況	達成度合いと今後の進め方
1．生産基盤の維持確保			
(1) 肉牛（枝肉）の出荷頭数確保	6，500頭	2，962頭	JA・関連会社・販売先と連携し、補完的生産事業による生産頭数の維持を図る。また、県本部生産基盤対策を活用した県外販売や輸出を拡大し、生産者手取りの確保に取り組む。
(2) 肉豚（枝肉）の出荷頭数確保	60，000頭	27，441頭	信州産肉豚の頭数確保に向け、子豚の安定供給と再生産可能な価格形成に取り組む。
(3) 生乳の出荷量確保	79，000t	38，485t	酪農家戸数の減少や夏場の猛暑による乳量低下の影響を受けている。県本部生産基盤対策事業を活用し、基盤維持に取り組む。
2．信州産ブランドの強化			
(1) 信州プレミアム牛肉の生産販売	2，450頭	1，426頭	ブランド認知度の向上に向け、県内外での信州フェアの開催・協賛に取り組む。また、輸出事業者との連携を強化し、和牛の輸出拡大による有利販売を図る。
5．みどりの食料システム戦略の取り組み			
(2) 軽量肥料Lightシリーズの開発普及	3，400t	1，315t	適正施肥やコスト抑制のニーズに対応した銘柄の取扱が伸長。引き続き試験結果の検証・採用へ向けた検討を進める。
6．農機コスト低減の取り組み			
(1) 国内肥料資源を活用した原料・製品の拡大	900t	348t	堆肥等を活用したBB肥料製品の取扱拡大に向けた提案を行う。
(1) 県域推奨型式設定による重点購買	供給1，100台	供給889台	11月開催の第一回推奨型式研究委員会にて型式の追加・改廃検討を行う。
(2) 共同購入コンバイン（低コストモデル）の推進	年間受注10台	4台	展示機を活用し推進強化を図った。メーカーで生産が遅れていた分の納品を進める。
7．県域農機整備事業の体制強化			
(1) 県域整備拠点による系統整備体制の強化	丸子395台堀金235台	丸子162台堀金104台	トラクター・コンバインの重整備が増加。農閑期の計画的な整備を進める。

実行具体策	8年度計画	進捗状況	達成度合いと今後の進め方
3．県本部生産農場の機能発揮			
(2) 信州プレミアム牛肉の輸出強化	250頭	133頭	県主催の海外レセプションへの参加や、海外バイヤーとの意見交換・農場視察等を通じ、ブランドイメージの強化を図る。
(3) 信州産生乳の消費拡大イベントおよび各JA祭への協賛	8回実施	5回実施	乳量が増加する秋口や牛乳の需要が落ち込む冬場に、消費拡大PRや酪農への理解醸成活動を実施し、牛乳の消費拡大を図る。
(1) 素子豚の安定供給	23，000頭	10，149頭	生産管理と衛生対策を強化し、出荷頭数の確保を図る。また、肥育事業では、銘柄豚の有利販売に向けた協議を進め、新たな供給先の確保に取り組む。
4．新たな県産食肉流通体制（代替策）の構築			
(2) 生乳の出荷量確保	2，100t	968t	搾乳牛の頭数を維持するとともに、飼養管理を強化し、1頭当たりの搾乳量確保を図る。
(1) 食肉公社閉鎖後の代替出荷先【荷ふり】、および県検討会議への報告、行政支援要請	移行準備	荷振先の決定 支援策の検討	新たな処理施設への荷ふりを決定。かかり増し経費の負担については、県検討会で引き続き協議する。
5．畜産酪農営農センターの機能整備			
(1) 中信畜産酪農営農センターの最適な運営体制の協議と方向付け	協議及び方向付け	継続協議	センター加入JAと課題を共有し、対応策の協議・検討を進める。

【くらし支援部】

実行具体策	8年度計画	進捗状況	達成度合いと今後の進め方
1．石油取扱数量の確保			
(1) 系統結集数量を背景にした仕入強化	250，000kℓ（協経含む）	97，707kℓ（協経含む）	県下統一対策実施により系統結集を強化するとともに、ENEOSアプリ・Enekeyの会員獲得を進め顧客の固定化に取り組んだ。下期は燃料油配送の各種企画を展開し販売数量を確保する。
(2) キャッシュレス・Web化対応による顧客固定化			
2．SS協同経営の販売数量と収益の確保			
(1) JAらしいSSづくりによる顧客囲い込み	65，000kℓ	29，445kℓ	A・コープとSSが連携したJAらしい相互送客イベント（7月実施：17店舗・27SS）、SS独自企画による来店促進に取り組んだ。下期は第2回A・コープ連携企画、統一キャンペーン、SS独自イベント（感謝祭）により、販売数量を確保する。
(2) SS独自企画による来店促進と収益確保			
3．ガス取扱数量の確保			
(1) JA別マスタープラン実践による小売事業強化	14，300t	5，887t	上期に全JAでマスタープラン検討会を開催し、営業・保安等の行動計画の達成に向けた協議を実施した。顧客接点活動を強化し供給戸数・数量の確保に取り組む。
(2) 顧客接点活動の実践・強化による顧客防衛			
4．ホームエネルギー事業の拡大			
(1) JAでんき取扱いの拡大	低圧供給 累計6，000戸	低圧供給 累計3，230戸	JAでんきの取扱いを10JAで展開し、JAとの同行訪問を通じて、LPガスとのセット割引提案とあわせた推進を実施。今後も各種推進施策やインセンティブを活用し、さらなる普及拡大に取り組む。
5．自動車取扱台数の確保			
(1) 営農車の台数確保と電動車の取扱拡大	2，500台	1，034台	営農車拡販キャンペーン（6-8月）によるPR実施。下期は県下統一キャンペーンを実施し営農車と電動車の台数拡大を図る。
6．eコマース事業の拡大			
(1) JAタウン出店者・出品数の増加による取扱高拡大	310百万円	149百万円	JA・既存出店者との情報交換により新規出店者5社獲得。取扱計画達成に向け、出店者への販促フォロー強化及び出品促進を図る。
7．新規事業の構築と展開			
(1) 組合員のくらしを支援する事業の提案	10事業（商品）	6事業（商品）	商品研修会での提案及びJA個別協議により取扱拡大を図る。更なる新規取組に向け取引先と協議を進める。
8．セレモニー施行件数の拡大			
(1) ニーズに対応した葬儀サービスの強化	共同運営葬儀 4，650件	共同運営葬儀 1，968件	県内死亡者数は減少傾向の中、施行件数は前年比100%を確保した（シェア率：前年+0.3ポイント）。小規模葬を中心とした件数確保に向けたPRを強化する。

畜産酪農課

今年度も「酪農体験ふれあいファーム」に多くの子供たちが参加

ＪＡ全農長野畜産酪農課は、八ヶ岳山麓の豊かな自然に囲まれた環境で「酪農体験ふれあいファーム」を開催しています。この取り組みは、小中学生を対象に、生産現場でのさまざまな体験を通じて、いのちを育む尊さや食の大切さ、そして酪農の魅力を感じてもらうことを目的としています。

今年度も畜産酪農課の職員がインストラクターとなり、「バターづくり体験」「搾乳体験」「牧場散策」「ビデオ鑑賞」の４つのメニューを実施しました。児童たちは牛と触れ合いながら酪農について学び、普段はなかなかできない貴重な体験を楽しみました。

「牧場散策」では、牛舎や牧場内を見学し、乳牛の様子や飼育環境を観察しました。実際に乳牛に触れることで、その大きさや温もりを体感し、興味深そうに観察する姿が見られました。**（＝表紙右下）**

また、「バターづくり体験」では、生乳からバターができる仕組みを学びながら、実際に手を動かして製造に挑戦しました。日頃口にしている乳製品がどのように作られているのかを知ることで、牛乳や乳製品への理解を深める機会となりました。

こうした体験を通じて、児童たちは乳牛や酪農への理解を深めるとともに、食を支える生産現場やいのちの大切さについて学ぶことができました。年間を通じて延べ1,879名が参加し、多くの皆さんから好評をいただき、今年度も盛況のうちに終了しました。



牛舎内見学の様子

営業課

オークワでのトラックセールを実施

ＪＡ全農長野営業課は、９月19日㈯にスーパーセンターオークワ南紀店（和歌山県新宮市）、９月26日㈯にオークワわくわくシティ尾崎店（大阪府阪南市）において、長野県産農産物の魅力をPRする「トラックセール」を実施しました。これらはパームシティ和歌山店に続き今年度２回目、３回目の開催となり、両会場とも多くのお客さまで賑わいました。**（＝表紙上）**



南紀店で賑わう売り場

南紀店でのトラックセールは毎年最大規模で開催されており、当日は開店前から多くのお客さまが来店。開店後も約２時間にわたってレジ待ちの列が途切れないほどの盛況ぶりで、過去最高の売り上げを記録しました。「毎年楽しみにしている」といった声も聞かれ、長野県産農産物でカートをいっぱいにするお客さまの姿が数多く見られました。また、県外から来店された方もあり、幅広い地域のオークワファンへ長野県産農産物を届ける機会となりました。



レジ待ちの行列ができるほどの賑わい（尾崎店）

尾崎店では、店舗正面に特設売り場を設営し、来店者へ長野県産農産物を積極的にPRしました。開店前から並ぶお客さまもいらっしゃり、売り場は早い時間帯から多くの人で賑わいました。商品を購入したお客さまが知人へ電話で開催を知らせたり、「知り合いにも配りたい」と通常より多めに購入したりする様子も見られ、長野県産農産物への高い関心がうかがえました。

全農長野営業課では、今後もトラックセールなどの販売促進活動を通じて、長野県産農産物の魅力発信に取り組んでまいります。

米穀課

令和８年産米の概算金を報道機関に説明


記者会見の様子

ＪＡ全農長野米穀課は９月25日㈭、県内メディアを対象とした記者会見を開催し、令和８年産米の概算金について説明しました。会見には県内の報道機関14社が出席しました。

今回の会見は、内部取引情報である概算金価格そのものを説明するだけでなく、令和７年産米の販売動向や現在の流通状況を踏まえ、令和８年産米の概算金をどのような考え方で決定したのかを広く理解してもらうことを目的に開催しました。

令和８年産米の概算金設定にあたっては、生産資材価格が高止まりする中で生産者が安心して営農を継続できる手取りの確保を目指しました。一方で、消費者も継続して購入できる価格との両立も重視しました。

しかし、令和８年６月末の民間在庫量は243万トンと、適正在庫とされる180～200万トンを大きく上回っています。さらに令和９年６月末の民間在庫量は246～283万トンまで増加すると予想されており、需給緩和の状態が続く見通しであることが概算金設定の大きな要因となりました。また、それによる販売価格の低迷、長期販売に伴う保管経費の増加、食料品の消費税減税など、販売面における多くの要素も考慮し、最終的に「コシヒカリＡ・ＪＡ安心基準米・紙袋・１等」で60kg当たり16,730円に設定しました。



実施中の新米キャンペーン

全農長野の７年産米販売進捗は、会見時点の出荷量が前年同期比90％と鈍化しており、出荷進度も74％と前年の82％を下回っています。全国的にも同様の傾向で、民間在庫量が多い状況を反映しています。

今回決定した概算金は、国が発表した生産者段階のコスト指標60kg当たり20,535円に対し4,000円程の差があります。全農長野では今後、キャンペーンや店頭での販売促進を進め、最終精算を含めてコスト指標に近づけられるよう努めてまいります。

名古屋販売事務所

椙山女学園高校で果実食育を実施

ＪＡ全農長野名古屋販売事務所は９月14日㈪・15日㈫の２日間、名古屋市千種区の椙山女学園高校の３年生120名の生徒を対象に長野県産果実の食育を実施しました。

椙山女学園高校は、食育による健康増進や食文化の理解を重視しており、「食と健康」をテーマに社会や地域との連携、地産地消による食育活動に力を入れている学校です。

今回の食育は同校の家庭科の授業に参加し、当日の調理実習メニューが「プラムを使ったクラフティ」であることから、プラムを通じて旬の果実、長野県産果実の紹介を行い、果実への理解を深めてもらいました。また、焼きあがったクラフティの前に生のプラムを食べ、果実の調理による味の変化、楽しみ方を知ってもらいました。生徒からは「両方おいしい」「そのまま食べた方がさっぱりしているから暑いときにはそのまま食べたい」などのほか、「プラムを初めて食べた」「果物のことをもっと知りたい」といった感想もありました。


調理実習の様子

今回の食育では、プラムを例に挙げ季節に応じて出回る果実の話をしましたが、これからの消費を担う若い方により深く果実のことを知ってもらうきっかけとなりました。

名古屋販売事務所では、今後も長野県産農産物のファンを増やすため、消費宣伝・食育に取り組んでまいります。

東京販売事務所

東御市・ＪＡ信州うえだ「ブドウ」トップセールスを開催

９月29日㈫、東京青果㈱の協力のもと、東御市・ＪＡ信州うえだ「ブドウ」トップセールスが開催されました。会場となった東京青果㈱のイベントコーナーには、出荷最盛期を迎えているブドウの「シャインマスカット」「クイーンルージュ®」「有核巨峰」と、リンゴの「秋映」を展示し、市場関係者の皆様にPRしました。**（＝表紙左下）**

代表して東御市の花岡利夫市長、ＪＡ信州うえだの丸山勝也組合長より挨拶をいただき、長野県の巨峰発祥の地である東御市のPRに加え、70年培われてきたブドウの栽培技術によって生産された美味しいブドウの魅力を、市場関係者に向けて力強くアピールしていただきました。

また、挨拶終了後には花岡市長、ＪＡ信州うえだ眞島実会長、丸山組合長よりブドウ３種類の食べ比べパックが市場関係者の皆様に直接手渡され、大変好評のうちに終了となりました。

ＪＡ全農長野東京販売事務所は、今後も関係事業所・ＪＡと連携しながら、長野県の農産物のPRに努めてまいります。


東京青果㈱川田社長と東御市・ＪＡ信州うえだ代表者

大阪販売事務所

「にっぽん青果祭」で信州の旬をPR

ＪＡ全農長野・信州果実推進協議会は９月26日㈯、27日㈰の２日間、大阪市内で開催された「にっぽん青果祭」に、長野県産青果物の販売に日頃からご尽力いただいている市場関係者の皆さまの協力のもと出店し、関西の消費者へ信州の旬の魅力を発信しました。「にっぽん青果祭」は、全国から選りすぐりの野菜や果物が集まる、国内最大級の農業イベントです。

販売した商品は、長野県産「ぶどう三姉妹®」の詰合せカップをはじめ、リンゴの「秋映」「シナノドルチェ」、ナシの「南水」、きのこの詰め合わせ、白菜、白ネギ、そして花束です。秋の味覚を取りそろえた売り場には多くの来場者が足を止め、旬の農産物を手に取っていただきました。


多くの来場者で賑わう長野ブース

開催両日とも雨天となり来場者数への影響が懸念されましたが、試食や商品説明を通じて長野県産農産物の魅力を伝え、多くの商品を販売することができました。特に旬を迎えた果実や野菜、きのこへの関心は高く、「長野県産はおいしい」「いつも見ているパッケージですね」といった声も聞かれました。

会場には、購入した農産物をその場で調理してもらえるコーナーも設けられ、来場者が買ったばかりの野菜やきのこを天ぷらなどにして味わう姿が多く見られました。実際に食べて産地の魅力を感じる企画は大変好評で、長野県産農産物のおいしさを直接伝える貴重な機会となりました。また、資材や燃料価格の高騰などによる生産コスト上昇が生産者経営に大きな影響を与えている現状についても、チラシ配布を通じて理解醸成に取り組みました。

今回の青果祭は、信州農産物の魅力と生産現場の思いを消費者へ直接届ける有意義な機会となりました。今後も市場関係者と連携しながら、長野県産農産物の認知度向上と販売拡大に取り組んでいきます。



「ぶどう三姉妹®」詰合せカップの販売

大阪販売事務所

ＪR大阪駅に信州の旬が集結「みのりみのるマルシェ 信州の実り」開催 ～信州のおいしい秋をお届け！～

ＪＡ全農長野大阪販売事務所と信州果実推進協議会は９月26日㈯、JR大阪駅北口アトリウム広場において、「みのりみのるマルシェ 長野の実り」を開催いたしました。

当日は、長野県を代表する果実であるぶどう三姉妹®（シャインマスカット、ナガノパープル、クイーンルージュ®）をはじめ、秋映やシナノドルチェ、南水、きのこセット、野菜セットなど旬の農産物を販売し、多くの来場者の皆様に長野県産農産物の魅力をPRいたしました。

当日はあいにくの雨天となりましたが、大阪駅という利便性の高い立地条件もあり、多くの方々にご来場いただきました。特にブドウへの関心が高く、試食や対面販売を通じて各品種の特徴やおいしさを紹介したことで、購買につながる場面が数多く見られました。また、市場の販売担当者からも来場者へ長野県の農業や産地の特徴について説明があり、長野県産農産物への理解を深めていただく機会となりました。



多くの来場者で賑わう会場

来場者からは、「長野県産のブドウは品質が高い」「品種ごとの違いがよく分かった」「長野県の果物をまた購入したい」といった好意的な意見が聞かれました。中でもクイーンルージュ®については、「初めて知った」という声が多く、新品種の認知度向上にも一定の効果がありました。また、農産物に加え、長野県の観光や地域の魅力について関心を示す方も見受けられ、本県の情報発信の場としても有意義な機会となりました。

今回のマルシェは雨天開催ではありましたが、消費者の皆様と接しながら長野県産農産物の魅力を発信することができました。今後も関西圏における販売促進活動や情報発信を継続し、消費者ニーズの把握に努めるとともに、長野県産農産物の認知度向上と販売拡大につなげてまいります。

東京販売事務所

ＪA中野市「きのこ・ブドウ」トップセールス開催

９月15日㈫に横浜市中央卸売市場本場において、横浜丸中青果㈱協力のもと、ＪＡ中野市「きのこ・ぶどう」トップセールスが開催されました。会場にはＪＡ中野市産のきのこ（えのき、ぶなしめじ、エリンギ）と、ブドウ（シャインマスカット、クイーンルージュ®、種なし巨峰）を展示し、市場関係の皆様にPRしました。


横浜丸中青果㈱小野社長と産地代表者

代表してＪＡ中野市望月隆組合長から挨拶があり、旬を迎えた露地ブドウ、生産量全国一を誇るえのきをはじめとするきのこ類のPRに加え、ＪＡ中野市の魅力を、市場関係者に向けて力強くアピールしていただきました。

また、挨拶終了後にはきのこ３種類とぶどうの粒パックが望月組合長・上野常務より市場関係者の皆様に手渡され、大変好評のうちに終了となりました。

東京販売事務所では今後も関係事業所・ＪＡと連携しながら、長野県産農産物の積極的なPRに努めてまいります。

総務広報課

清泉大学農学部令和９年開設
清泉大学・菅原学長とＪＡ全農長野・長谷川県本部長が懇談

清泉大学学長に就任された菅原裕二学長が９月24日㈭にＪＡ全農長野を訪れ、長谷川孝治県本部長との懇談が行われました。清泉大学では令和９年４月に農学部の開設が予定されており、今回の懇談では新学部の構想や長野県農業の将来、人材育成について意見が交わされました。


対談後（左から）全農長野・長谷川県本部長、清泉大学・菅原学長

菅原学長からは「新たに開設される『農学部アグリデザイン学科』では、長野県の強みである農業や発酵・醸造文化を生かし、地域課題の解決に貢献できる人材を育てていきたい。２年次以降は『食品・発酵共創コース』と『農・地域共創コース』に分かれ、農業だけでなく経済・経営・観光・地域振興まで幅広く学べるカリキュラムを構想しています」と、新学部開設の意気込みを話されました。



新設される農学部案内

菅原学長の説明を受け長谷川県本部長は、ＪＡ全農長野の事業概要や長野県農業の特徴を紹介するとともに、「当会は農業の生産から流通、販売、加工まで幅広い事業に関わっています。県内農業や食品産業、発酵・醸造産業との関係も深く、インターンシップや出前講座、現地実習などを通じて学生支援をさせていただきたい」との考えを示しました。

懇談では、人口減少や担い手不足、食糧安全保障、地域活性化など農業・地域社会が抱える課題についても意見交換が行われ、大学と地域産業、ＪＡグループが連携し、学生が現場で学ぶ機会を創出することが地域の未来を支える人材育成につながるとの認識で一致しました。

全農長野は、フィールドワークやインターンシップ、出前講座などを通じて、開設される清泉大学農学部との連携を深め、長野県農業の発展と地域振興に向けた取り組みを進めてまいります。

訃　報

元長野県経済連専務理事の大月計吉さんが、去る令和８年９月12日、満89歳で逝去されました。葬儀は９月15日、近親者のみで執り行われました。

大月計吉さんは昭和38年に長野県経済連北佐久支所へ入会され、野菜の生産・販売を中心に担当されました。その後、東京販売事務所長、農業総合振興室長などの要職を歴任し、平成４年からは生産販売事業本部副参事、平成５年には参事に就任されました。

平成７年には常務理事、平成10年には専務理事に就任され、平成12年に退任されるまで、果敢なる実践と、比類なき指導力を発揮され、ＪＡおよび農家組合員の皆様からの負託に応えるとともに、長野県経済連の発展に尽力されました。

また、平成13年の全農統合に先立ち、複雑な折衝や諸課題の整理にも取り組まれました。

生前のご功績に深く敬意を表するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

JA全農長野の事業現況

令和８年度９月末総供給販売高実績表　（単位：百万円、％）

品目＼区分	当年度実績	計画比	前年比
生産振興課	0	－	0
野菜種苗センター	125	98	96
生産振興部計	**125**	**98**	**96**
米穀	13,000	84	148
果実花き	27,384	104	112
野菜きのこ	49,959	107	109
営業	9,081	96	104
生産販売部計	**99,425**	**101**	**113**
農業資材	7,112	114	116
肥料農薬	4,158	112	110
農業機械	4,219	114	109
施設住宅	2,238	210	97
生産購買部計	**17,727**	**120**	**110**
畜産酪農	17,370	109	107
三岳牧場	24	21	17
ＳＰＦ繁殖センター	147	91	106
八ヶ岳牧場	152	91	97
畜産酪農部計	**17,693**	**108**	**106**
燃料・ホームエネルギー	11,876	105	102
ＳＳ協同経営	3,539	106	92
くらし	3,516	99	98
くらし支援部計	**18,931**	**104**	**99**
長野県本部計	**153,900**	**104**	**110**

（内部販売高含む）

11月のラジオ番組表

放送日時	放送局	番組名	出演予定
11/25(水) 11:50	SBC ラジオ	坂ちゃんの ずくだせえぶりでい内 「暮らしの応援団」	燃料・ホームエネルギー課

公式SNSもご覧ください

X　Instagram　note　グリーンレーダーWEB版

全農関東甲信地区役職員親睦野球大会が開催されました

令和８年９月18日㈭・19日㈮に「全農関東甲信地区役職員親睦野球大会」が埼玉県さいたま市のけんぽグラウンドにて、10都県本部参加のもと開催されました。長野県本部は、選手・監督・マネージャー・役員・事務局の総勢22名の選手団として出場し、２日間を戦い抜きました。

１回戦は栃木県本部と対戦。昨年も同じ対戦で苦い思いをしましたが、今年は４対３で雪辱を果たしました。２回戦では強豪群馬県本部に惜しくも敗れましたが、千葉県本部と対戦した３位決定戦では、先制点を許すものの大量得点を重ね逆転に成功し、３位を勝ち取りました。

大会を通じて親睦と結束を深めることができました。このチームワークと連携を日々の業務に生かし組織の活性化につなげていきます。



３位を勝ち取った長野県本部選手団

編集後記

店頭には信州産のさまざまな秋の農産物が並ぶようになりました。

私の畑では10月中旬にサツマイモの「紅あずま」と「シルクスイート」を収穫しました。９月の長雨により、肥大し過ぎたり、味が落ちたりしていないか心配でしたが、例年よりやや小ぶりだったものの、無事に収穫することができました。蒸して味わうと、「紅あずま」は繊維質を感じるホクホクとした食感でした。「シルクスイート」はさっぱりとした甘さで軽やかな食感が楽しめました。サツマイモは生の状態では約60％が水分で、残りの大部分を炭水化物が占めています。また、ミネラルではカリウムが多く、野菜の中でもビタミンCも多く含みます。

ほかの作物ではダイコンが育ってきました。今年は風雨が強い日が多かったため、しっかりと土寄せをしました。また、葉の形が整っている株を残すように間引きました。ダイコンは、煮物、漬物、おろしなど幅広い調理に使える野菜です。ダイコンは根と葉の両方を食べることができるため、葉は味噌汁に入れて食べています。葉の成分を調べてみるとβカロチンを多く含んでいることが分かりました。11月半ばに収穫した後の寒い時期は、おでんや鍋料理などで、だしのしみ込んだダイコンが今から楽しみです。（T）

GREEN Leader
2026 11 Vol.570
グリーンレーダー11月号（毎月発行）　2026年10月20日発行　第570号
発　行／JA全農長野　長野市大字南長野北石堂町1177番地3　発行人／長谷川孝治　印刷／PO印刷株式会社　長野市青木島3丁目3番地3



信州 光と風と水のハーモニー JA全農長野

信州 光と風と水のハーモニー JA全農長野



JA 全農長野ホームページ…… https://www.nn.zennoh.or.jp
インターネットで産地直送「JA タウン」…… https://www.ja-town.com

VEGETABLE OIL INK